

土製品・石製品
 casting type

検出個体は一四個体で一個体を除いて弾の casting type です。小型のものが大半で、単数の製品を casting type するものですが、一度に複数の製品を casting type することが出来るものもあります。

土玉

土玉は一六三点出土しました。すべて素焼で直径は最小のものが一三・五mm、最大のもものが四六mmと幅がありますが、大別すると大小の三種類に分けられます。小型のものは直径一三・五〜二二mmで九点。中型のものは直径二五〜三三mmで最も多く一四五点、大型のものは三四・五〜四六mmで九点存在します。

硯

検出個体は一四個体、石材は粘板岩が用いられています。形態はすべて長方形のもので大きさは様々です。

小玉

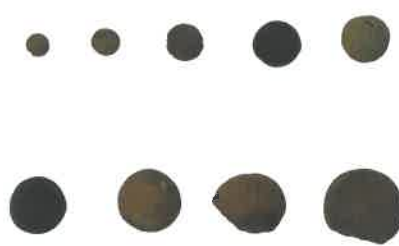
直径六mmの丸玉で、一点のみの出土です。孔の径は一mmで、水晶製です。



casting type

硯

小玉



土玉



石白

武器・武器

札

札は二六點出土しています。一点(25)を除いてすべて鉄製です。今回出土したものは本小札と伊予札の二種類です。この内伊予札は札頭がやや円味を呈する一文字頭伊予札と札頭が半円状(山)を二つ並列する碁石頭伊予札に分けられます。1〜3が本小札、4〜18が一文字頭伊予札、19〜24が碁石頭伊予札です。一文字頭伊予札は、本来は革札として脚部を覆う佩楯に用いられることが多いようで、鉄製のものも稀です。革札の場合は胴部(立拳・長側)の他に草摺・袖にも用いられますが、鉄札は胴部に限るようです。碁石頭伊予札は札頭の山の数から二山碁石頭と呼称されるものです。

兜金・はばき

兜金は刀の柄頭を覆う金具で、二点出土しました。ともに銅製で、26は燕尾状の切れ込みを持つ完形品です。はばきは一点のみの出土です。鉄製で、上部が一部欠損していますがほぼ完形です。

小柄・刀

小柄は銅製の柄が二点(28・29)、鉄製の刀身が五点(30・31他)出土しました。柄は二点とも、幅一四mm、厚き四mmのものです。28は遺存状態が悪く、表面は無文のようです。29は内部に木製部が残存しており、詳細は不明ですが表面には魚子地に草花文、丸と綾杉の文様が刻まれています。刀身は、身幅が広いもの(30)と狭いもの(31)がありますが、いずれも刀背は丸くなっています。30は先端部のみで全容は不明です。31はそれぞれの残存部から復元すると、茎部の長さは八cm、刃部の長さは一四cmと推測されます。刃部は根元の最大幅が一三・五cmで、切先に向かって身幅が徐々に細くなっていきます。刀は一点のみの出土です。切先のみで刀背はほぼ平坦です。平造りの刀で、身幅が比較的に広いことから腰刀の可能性が高いようです。

鉄鏃

鉄鏃は一六點出土しました。平根式鉄鏃(32)は一点のみの出土です。箭頭部の鋒の幅が広く、先端に向かって薄くなります。茎部の断面は方形です。本類は鏃矢に取り付けられることの多い鉄鏃で、儀礼的な鉄鏃と考えられます。平根式鉄鏃(33〜38)は一五點出土しました。箭頭部の二面を鑿状に合わせた形状のものです。根元の断面は隅丸方形を呈し、中央に茎を差し込む方形の孔があきます。実戦用の鉄鏃としての性格が強いものです。